

カペシタビン+シスプラチン+トラスツズマブBS

◆ 点滴に使用する薬と点滴時間

- 初回 : 5時間15分
- 2回目以降 : 4時間15分

使用する薬	外観	点滴時間
トラスツズマブ BS 初回 : 8mg/kg 2回目以降 : 6mg/kg		初回 : 90分 2回目以降 : 30分
生理食塩液、KCL、 硫酸Mg (腎障害予防)		1時間
吐き気止め① プロイメンド®		30分
吐き気止め② アロキシ®, デカドロン®		15分
シスプラチン 80mg/m ²		1時間
利尿剤 (腎障害予防) フロセミド®		静脈内注射
生理食塩液、KCL (腎障害予防)		1時間

◆ 内服薬

お薬の名前	飲み方、スケジュール
<p data-bbox="107 217 406 259">カペシタビン錠</p> 	<p data-bbox="535 238 1392 300">1回 1000mg/m² 1日2回 朝・夕食後</p> <p data-bbox="664 362 1263 414">14日間内服し、7日間休薬</p>

- 薬の量は、副作用の程度などにより変更されることがあります。
- 点滴時間はあくまで目安であり、時間が前後することがあります。

◆ スケジュール

21日間を1サイクルとして、以下の治療を繰り返します。

シスプラチン、トラスツズマブBS：1日目に点滴

カペシタビン 14日間内服

7日間休薬

1サイクル：21日間

◆ 飲むときの注意

- 医師より特別に指示がなければ、1日目の夕分から開始します。薬局から薬が受け取れない場合などは、2日目の朝分から開始します。
- この薬は、患者さんの疾患、体の大きさによって投与量が決められています。処方された**用法用量、スケジュールを必ず守ってください**。

◆ 飲み忘れたとき

- **飲み忘れたときは、その分は飲まないでください**。次のタイミングから通常のスケジュールどおりに再開し、決して2回分を飲まないでください。

◆ 過剰に飲んでしまったとき、間違えたとき

- 多く飲んでしまった、スケジュールを間違えた場合などは、すぐに病院へご連絡ください。

◆ 飲み合わせについて

- カペシタビンは、下記の薬を投与中および中止後7日以内は、**一緒に使用してはいけません**。一緒に使用した場合、白血球減少、下痢、口内炎などの副作用が強くあらわれるおそれがあります。

商品名（先発名）	一般名
ティーエスワン®	テガフル・ギメラシル・オテラシル

- カペシタビンは、**上記以外にも、併用に注意が必要な薬があります**。薬局やドラッグストアで購入した薬も含め、担当の医師や薬剤師に飲み合わせを確認してもらいましょう。

◆ 治療日誌について



- 副作用の症状を把握したり飲み忘れがないように、治療日誌をつけましょう。

◆ 薬の名前について

- このパンフレットには、当院で使用しているお薬の名前が書かれています。調剤薬局で受け取ったお薬の名前と異なる場合があるため、お薬の名前を薬局でご確認ください。

◆ 吐き気止めの飲み方

- 症状があってもなくても、**必ずお飲みください。**

お薬の名前	用法用量、使用上の注意
<p>デカドロン®錠 4mg</p> 	<p>1回 ____ 錠 1日 ____ 回 ____ 食後 2～4日目</p>
<p>オランザピンOD錠 5mg</p> 	<p>1回 1錠 1日 1回 夕食後 1～4日目</p> <ul style="list-style-type: none">• 眠気、めまい、動悸、立ちくらみが起こることがあります。薬を内服している間は、自動車の運転などはさけてください。• 糖尿病の方、糖尿病と言われたことのある方は、この薬を服用することはできません。

◆ 主な副作用

白血球減少

白血球が減少すると免疫力が低下し、風邪などの感染症にかかりやすくなります。

治療開始1～2週間後に白血球の値が最も低くなり、その後1～2週間かけて回復します。

うがい・手洗いなどの感染予防を心がけましょう。

37.5度を超える発熱時、医師からあらかじめ処方された薬がない方は、病院へご連絡ください。

赤血球減少

貧血になり、めまい、だるさ、動悸、息切れなどの症状があらわれます。治療開始2～4週間頃に低くなります。

必要に応じて、薬で治療したり輸血することがあります。

血小板減少

血液が固まりにくくなり、歯茎からの出血や鼻血が出やすくなります。

治療開始1～2週間後に血小板の値が最も低くなり、その後1～2週間かけて回復します。

転倒やケガに注意してください。

必要に応じて、輸血することがあります。

【血液検査について】

副作用の確認のために、定期的な血液検査を行います。

◆ 点滴中

下記の赤字の症状があるときは、すぐに医療スタッフへお声かけください。

過敏反応（アレルギー）

寒気、吐き気、頭痛、めまい、発疹、息苦しい

治療開始1～2回目が起きやすいですが、治療を繰り返していても現れることがあります。

血管外漏出

点滴が漏れている、針を刺したところが痛い、熱っぽい、赤く腫れている、違和感がある

※血管痛・静脈炎

薬の種類によっては、点滴が漏れていなくても血管痛を起こすことがあります。また点滴終了後、血管のつっぱり感、硬くなる、色素沈着などの静脈炎が起こるがあります。

点滴前にホットパックで腕を温めるなどの対応を行うことがあります。治療のたびに起こる血管痛が辛い場合や静脈炎がひどい場合は、主治医や医療スタッフにご相談ください。

◆ 点滴終了後～1週間頃

吐き気・嘔吐・食欲不振

必要に合わせて、吐き気止めでしっかりと予防を行っています。

それでも症状がある場合は、**吐き気止めを追加で使用**することがあります。**水分が摂れないほど吐き気・嘔吐がひどい場合は、ご連絡ください。**

便秘

お腹の動きが悪くなり、便が固くなったりお腹がはることがあります。食事や水分摂取、適度な運動でも改善しない場合、**下剤を使用**します。

発疹

皮膚が赤くなる、かゆみが出ることがあります。

刺激の少ない肌着を着用しましょう。**塗り薬やかゆみ止めの内服薬を使用**することがあります。

治療開始後数日以内に全身に発疹やかゆみが出る、目の粘膜や唇がただれる、発熱を伴う場合などはすぐに病院へ連絡してください。

倦怠感（だるさ）

疲れやすい、気力がない、体が重いなどの症状で、日常生活に支障が出る場合は、診察時に主治医へご相談ください。

しゃっくり

症状が辛いときは、**薬を使用**することがあります。

◆ 1～2週間頃

下痢

普段より1日4回以上多く排便がある、または1回でも水のような便があるときは、**下痢止めを使用**することがあります。

強い腹痛や発熱を伴う場合、医師から処方された下痢止めで改善しない場合は、ご連絡ください。

口内炎

口の中がヒリヒリする、しみる、痛くなることがあります。

歯みがきやうがいで口の中を清潔に保ち、**乾燥を防ぐことが大切**です。また**うがい薬や塗り薬**を使用することがあります。

がまんできない、水分もとれないほどの口の中の痛みがある場合は、病院へご連絡ください。

◆ 2～3週間頃

手足症候群

手のひらや足の裏に、赤く腫れる、ひび割れ、水ぶくれなどの症状がでます。

痛みを伴い、ひどくなると生活に支障が出ます。症状の強さ、薬の種類によっては、**フローズングローブ**を使用することがあります。

保湿剤（市販のハンドクリーム使用可）を塗り、予防しましょう。

手足へ過度な負担をかけないようにしてください。

脱毛

薬の種類によって抜けやすさは異なりますが、1～2か月後にはかなり目立つようになります。

髪の毛以外（まゆ毛、まつ毛など）全身の体毛も同様に抜けます。

治療が終了すると、少しずつですが生えてきます。

◆ 蓄積性の副作用

末梢神経障害（手や足の感覚が鈍くなる、しびれ）

治療を長く続けると少しずつ悪化し、しびれや痛みが持続するようになります。治療を終えても回復に時間がかかります。

手先をうまく使えずボタンがかけづらい、転倒しやすいなど、日常生活に支障が出る前に、診察時に医師に相談してください。

爪障害

爪が厚くなる、表面がでこぼこする、2枚爪になる

色素沈着

皮膚に日焼けのようなしみができる、爪が黒ずむ

味覚障害

味を感じにくくなる、塩味を強く感じる、金属味がする、まずく感じるなど味覚に異常が出る場合があります。

聴覚障害

耳が聞こえづらい、耳鳴りが続く場合は、診察時にご相談ください。

● その他の副作用

非常にまれな副作用ですが、万が一赤字の症状がある場合は、すぐに病院へご連絡ください。

間質性肺炎

たんが絡まない乾いた咳、息苦しい、発熱

心障害

定期的な心機能検査を行います。

足がむくむ、顔やまぶたが腫れぼったくなる、3日で2kg以上の体重増加がある、ちょっとした階段や坂で動悸や息切れを感じる

肝機能障害

定期的な血液検査を行います。

白目や皮膚が黄色くなる（黄疸）、ひどいだるさ

腎機能障害

定期的な血液検査を行います。

尿量の減少、全身のむくみ

シスプラチンの点滴を受ける患者さまへ

- シスプラチンの点滴をされる方は、腎障害の予防のために輸液を点滴し、尿量を増やす必要があります
- また、帰宅後も以下を目安に水分補給を行ってください。

水分補給の目安

- ① 当日は、シスプラチン点滴終了までに1Lの飲水を目指しましょう。
その後もこまめな飲水を心掛けて下さい。
- ② 翌日、翌々日は、普段の飲食に加えて、500mL～1Lの飲水を行ってください。
(食事が摂れるとき：500mL、食事が摂れないとき：1000mL)
- ③ 吐き気やおう吐などがあり、飲水ができないときは、医療スタッフに知らせるか、病院へご連絡ください。

手足症候群

◆ 症状

- 手のひらや足の裏に、ヒリヒリ・チクチクする、赤く腫れる、ひび割れや水ぶくれができることがあります。
- 症状が悪化すると痛みが出て、ものがつかめない、歩けないなど、日常生活に影響が出ます。

赤く腫れる



重篤副作用マニュアルより

ひび割れ



水ぶくれ



◆ 症状の程度

軽症



重症

痛みを伴わず、日常生活に制限がない

痛みを伴い、日常生活に制限がある

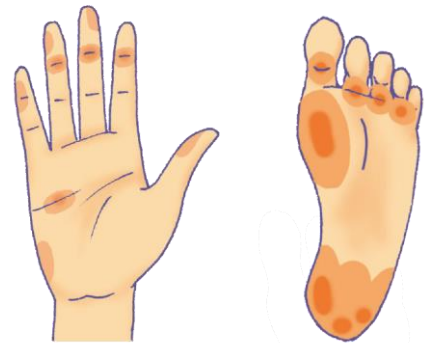
強い痛みがあり、**日常生活を送ることが困難**

休薬の目安

痛みや日常生活に制限が出る場合は、担当医と相談した上で、カペシタビンの服用を一時的に休む場合があります。

◆ 起きやすい部位

指先、指の付け根や関節、かかとなど、圧力や刺激のかかりやすい部分に起こりやすいです。手足に負担のかかりやすい仕事や趣味などがある方は特に注意してください。



◆ 起きやすい時期

カペシタビンを服用してから8週目くらいまでに起こることが多いです。

◆ 予防と対策

保湿

- ・ 症状がなくてもこまめに保湿剤を使用し、乾燥から皮膚を守りましょう。 手洗いや入浴の後はずみやかに塗るようにしましょう。

清潔に保つ

- ・ 軟膏を塗るところが不潔だと、細菌などによる2次感染を引き起こす可能性があります。手足は清潔に保ちましょう。

手足の保護

- ・ 革靴などきつい、あるいはかたい靴を履くのは避けましょう。
- ・ 熱いお湯（40℃以上）による入浴、シャワー、食器洗いは避けましょう。
- ・ 水仕事などを行うときは、手袋を着用しましょう。
- ・ 症状が出現したときは、できるだけ手足を安静にし、過度な運動は控えましょう。

◆ 予防や治療に使われるお薬

保湿剤

ヘパリン類似物質油性クリーム



- 目的 : **皮膚乾燥の予防（保湿）のために使用します。**
- 使用部位 : 手の平や甲、足
特にしわのある部位、指と指の間、指先などに使用して下さい。
- 使用回数 : 1日3～4回が目安ですが、手洗いのあとなどはこまめに塗りなおしましょう。
- 注意点 : **予防が重要です。症状がなくても処方されたその日から使用して下さい。**

ステロイド剤

リンデロン®V軟膏



- 目的 : **炎症（赤み、痛み）を和らげます。**
- 使用部位 : 手足の炎症を起こしている部分
- 使用回数 : 1日3～4回
- 注意点 : 保湿剤を塗布したあと、**炎症がある部分に塗りましょう。**
目や口などの粘膜には使用しないで下さい。

※このパンフレットには、当院で採用しているお薬の名前が書かれています。調剤薬局で受け取ったお薬の名前と異なる場合がありますが、お薬の成分・効果は同じです。調剤薬局の薬剤師にもご確認ください。

◆ 緊急時の連絡方法

困ったことがあったときは、下記にご連絡ください。

気持ち悪くて水分も摂れない
下痢が止まらない
37.5℃以上の発熱が続いている
薬の使用方法がわからない

など



診察券を用意する

代表：044-977-8111 に電話をかける

平日：8:30-17:00
土曜日：8:30-12:30

腫瘍センター
ナースステーション

夜間帯・休診日
など左記以外の時間

各診療科の当直医

◆ 予約外受診の方法

病院本館正面玄関に入って右手の
「②再診受付」または「予約外受付機」で手続きした後、
各診療科の外来でお待ちください。

※受付時間：平日8:30-11:30 土曜日8:30-11:00

- 生活上の注意については、別冊のパンフレットもご参照ください。
- ご不明な点がある場合は、遠慮なく医療スタッフにお尋ねください。

薬剤師